

*** 健診 検査 ご案内 ① ***

市立伊勢総合病院 健診センターでは以下のような検査を行っています。
※ドック等セット検査の受診だけではなく、
オプション検査(別料金)として追加していただくこともできます。
ご希望の方はお気軽にお声掛けください。



1. 身体計測

身長・体重	体重が去年と比較して変化したかに注目します。急な増減は要注意です。	
標準体重	BMI が22になる値を標準体重(理想体重)としています。	
肥満度	(体重-標準体重)/標準体重×100で算出します。	
体脂肪率	体重に対して脂肪分がどれだけであることを示したものです。	
BMI	[体重(kg)/身長(m) ²] で算出します。統計上22付近が疾病が少ないとされています。	
腹囲	メタボリック症候群の指標の一つで、内臓脂肪の蓄積(腹部肥満)の程度を調べます。	

2. 血圧測定

最高/最低血圧 心臓が収縮(最高血圧)または拡張(最低血圧)した時に血管壁に当たる血流の強さです。

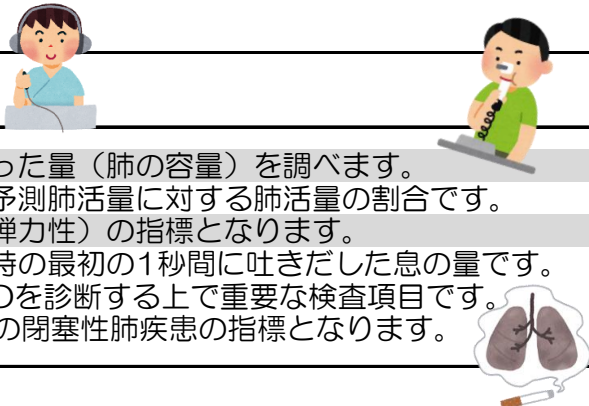
3. 眼科検査

視力検査 ・視力(遠見) ・矯正視力	遠方(5m)を見るとき視力低下が生じていないかをチェックします。 メガネやコンタクトレンズを着用した視力測定値です。	
色覚検査 ・石原表 ・パネルD-15	色覚障害を検出するための検査です。 色覚異常が疑われたときにその程度を調べる検査です。	
眼底検査 ・K-W分類 ・Scheie-H ・Scheie-S	網膜にある血管や視神経の状態を撮影します。糖尿病性網膜症や緑内障の発見に重要です。 高血圧や動脈硬化による眼底の変化を表す分類です。	
眼圧 OCT検査	眼の中の房水内圧を測定します。主に緑内障早期発見のための検査です。 網膜や視神経繊維層の断面画像を撮影し、眼の病気の有無を調べます。	

4. 聴力検査

オーディオメーター法 会話法	低音(1000Hz)と高音(4000Hz)の間こえを調べます。難聴の早期発見のための検査です。 会話の音を聞きとれているかの確認をします。	
-------------------	--	--

5. 肺機能検査

肺活量 ・%肺活量	息をできるだけ深く吸い込んでから吐き出した量(肺の容量)を調べます。 身長・体重・年齢・性別などによって得られた予測肺活量に対する肺活量の割合です。	
肺機能	努力肺活量を測定する検査で、肺の柔らかさ(弾力性)の指標となります。	
・1秒量	息をできるだけ深く吸って思い切り速く吐いた時の最初の1秒間に吐き出した息の量です。	
・1秒率 ・最大中間流量	1秒量が努力性肺活量に占める割合です。COPDを診断する上で重要な検査項目です。 肺の末梢気道病変の検出に有効で、COPDなどの閉塞性肺疾患の指標となります。	

6. 尿検査 7. 便検査 8. 血液検査

病気の早期診断や健康維持のために、尿や便、血液の各種成分を調べます。
※各検査項目の説明は別紙「健診検査ご案内②検体編」にあります。



裏面に続く⇒

9.胸部検査

胸部レントゲン
胸部CT

胸部全体をX線で2次的に透過撮影し、心肺や気管支などに病気がないかを調べます。
胸部全体をX線で細かく断層（輪切り）撮影し3次的に調べることで、レントゲン検査では見つけられないような骨の後ろに隠れた病気も調べることができます。



10.腹部エコー検査 11.甲状腺エコー検査

超音波を用いて肝臓・胆道・膵臓・脾臓・腎臓、などや甲状腺を調べるスクリーニング検査です。



12.胃部検査

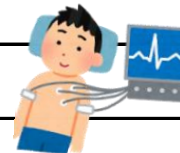
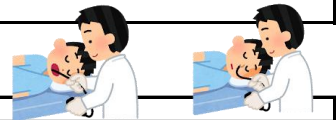
胃透視検査
内視鏡検査
・組織生検

造影剤（バリウム）を内壁に付着させて、食道・胃・十二指腸の病気を調べます。
内視鏡（カメラ）で、食道・胃・十二指腸の内壁粘膜の表面を直接観察します。
胃内視鏡検査でがんの疑いがあるなどの粘膜を一部採取し、細胞を検査します。



13.心電図検査

心臓が動くときに発生している電気信号を体表面でとらえて、波形として記録します。
主に不整脈・心肥大・狭心症・心筋梗塞などを調べます。



14.骨塩定量検査

骨粗鬆症の検査です。腕にX線をあて、骨密度の測定します。



15.婦人科検査

子宮細胞診
経膣エコー
子宮頸がんウイルス検査

子宮頸部の粘膜をこすって細胞を採り、顕微鏡で調べます。
膣から行う超音波検査で、子宮に筋腫や腫瘍、卵巣に腫瘍がないかなどを調べます。
子宮頸部がんの原因とされるヒトパピローマウイルス(HPV)に感染していないかを調べます。



16.乳房検査

乳房エコー
マンモグラフィー

超音波を用いて、乳房に腫瘍や石灰化などの病変がないかを調べます。
専用の機械で乳房を挟んでX線撮影を行い、乳房に腫瘍や石灰化がないかを調べます。



17.心臓ドック検査

心臓超音波検査
マスター負荷心電図検査

超音波を用いて、心臓の大きさや動き方・血液の流れ方などを調べます。
年齢・性別・体重に応じて階段を上がり下りしてから心電図を記録して変化を調べます。



18.脳ドック検査

※セットで実施している検査です。

頭部MRI
頭部MRA
頸動脈超音波検査
高次脳機能検査

磁気を利用して頭部の断面像を写し出し、病変がないかを調べます。
磁気を利用して頭部の「血管」を撮影し、形状や位置、病変がないかを調べます。
超音波を用いて頸動脈の血管の性状や位置、血流動態を調べます。
言語聴覚士が、簡単な言葉や数字を用いて脳の検査を行います。



19. 口コミ検診

運動器症候群・骨・関節・筋肉などの機能や骨密度の低下を調べ、早期に運動器症候群を見つけます。



自覚症状のない身体の病変をみつけたり、
自分の健康状態を知って生活習慣病の予防など、
健康を守るために是非お役立て下さい。



市立伊勢総合病院 健診センター

*** 健診 検査 ご案内 ② 検体編 ***



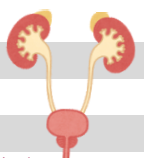
通常、検査の結果用紙には検査結果と一緒に基準値が表示されています。
一般的に基準値は「健康と思われる人達が95%含まれる範囲の値」とされています。



基準値から外れたら病気、というわけではなく、正常な方でも基準値から外れていることもあります。
一つの項目だけで判断するのではなく、他の検査結果と総合的にみることで健康維持にお役立てください。

6.尿検査



pH（酸性度）	尿は通常中性～弱酸性ですが、酸性やアルカリ性に傾いていないか調べます。	
尿糖	主に糖尿病を早期に発見するための検査です。	
尿蛋白	一定量を超える蛋白が尿に出ている場合は、腎臓の病気を疑います。	
尿比重	腎臓の尿の濃縮力を調べます。脱水状態、水分の過剰摂取などでも変化します。	
ケトン体	ブドウ糖の代わりに脂肪が分解されたときに生じる老廃物です。糖尿病や食事が摂れない時や発熱、激しい運動後にも増加することがあります。	
尿ビリルビン	主に肝臓や胆嚢の病気で起こる黄疸の早期発見に役立ちます。	
尿潜血	腎臓や膀胱などの尿路系のどこかに出血が起きているか調べます。	
尿ウロビリノーゲン	黄疸や赤血球が壊れる病気の早期発見に役立ちます。	
尿沈査	尿に含まれる細胞や結晶、細菌などの成分を調べて病気が隠れていないか調べます。	

7.便潜血



主に便の表面に付着した血液を検出し、大腸からの出血がないかを調べます。検査の精度を高めるために2回分調べます。

8.血液検査



【血球検査】 血液中の細胞の数や 血の濃さなどを調べる検査です。

白血球	細菌やウイルスによる感染症やアレルギーなどの炎症時や、血液疾患時に数が変動します。	
赤血球	血液中の赤血球の数を調べます。多すぎれば多血症、少なすぎれば貧血が疑われます。	
ヘモグロビン（Hb）	全身に酸素を運ぶ「血色素」の量を表したもので、血液の濃さを調べます。	
ヘマトクリット（Ht）	血液に含まれている赤血球の体積の割合を示したもので、血液の濃さを調べます。	
MCV*	赤血球1個あたりの容積を示したものです。	
MCH*	赤血球1個あたりに含まれるヘモグロビンの量を示したものです。	
MCHC*	赤血球1個あたりに含まれるヘモグロビンの濃度を示したものです。	

* この3項目（MCV・MCH・MCHC）は、赤血球数・ヘモグロビン・ヘマトクリットの数値から割り出して求めた値で、
貧血のタイプを推測する指標になります。

血小板数	血液を固める働きがあり、止血の際に重要な成分です。少な過ぎ、多過ぎに注意します。
------	--

【血液像】 白血球を種類別に分けて比率を調べることで、診断に役立てます。

好中球	感染症や身体のだるさに炎症が起きているときに増加し、血液疾患時に変動します。	
桿状核球	分葉核球よりも少し若い好中球の形態で、炎症時には割合が増えます。	
分葉核球	正常な状態では末梢血液中の好中球のほとんどがこの形態の細胞です。	
リンパ球	ウイルス感染症や、血液疾患などで増加することがあります。	
単球	リンパ球と共に、免疫に関わる成分です。	
好塩基球	アレルギー反応に関わる成分です。	
好酸球	炎症や血液疾患などの時、健康時とは違う種類の血球成分が増えることがあります。	
その他		

【血液型】

血液型	血液のABO型のタイプを調べます。	
Rh（D）	血液型の一つであるD型のタイプを調べます。	



血沈（赤沈）	赤血球が沈む速さを測定し、炎症や貧血の有無などを調べます。
--------	-------------------------------

裏面に続く⇒

【生化学的検査】

蛋白質	総蛋白	血清中のたんぱく質で、 栄養状態や、肝臓・腎臓の機能の程度を反映します。
	アルブミン	肝臓機能・消化吸収・腎臓機能障害などの程度を反映し、 体内蛋白代謝異常の指標とされます。
	A/G比	血清中のアルブミンとグロブリンを合わせたものが総蛋白質で、その比がA/G比です。
肝機能	総ビリルビン	黄疸の程度を示し、 肝臓・胆管疾患や貧血などで増加することがあります。
	直接ビリルビン	肝疾患の診断、黄疸などの診断に用いられます。
	AST (GOT)	肝炎、肝細胞障害、過栄養やアルコール性肝障害の診断に重要な成分です。
	ALT (GPT)	
	LDH (LD)	主に肝臓・心臓・赤血球・筋肉などに多く含まれており、 炎症や細胞が壊れた時に増加します。
	ALP	主に肝臓・胆管の疾患や、骨病変を伴う疾患の診断に重要な成分です。
	γ-GTP (γ-GT)	肝細胞の障害や、アルコール性肝障害の指標とされます。
	LAP	主に胆汁うっ滞や限局性肝疾患などで血液中に上昇する成分です。
	CHE (ChE)	肝臓で生成されるため、肝実質障害では低下し、過栄養による脂肪肝では上昇します。
心臓	CPK (CK)	心臓や筋肉、脳に多く含まれる成分で、その部位の細胞が壊れると上昇します。
膵臓	アミラーゼ (AMY)	膵臓、唾液腺に含まれる成分で、膵炎や耳下腺炎の診断に重要です。
脂質	総コレステロール	血液中の全てのリポたんぱく質に含まれるコレステロールの量を示したものです。
	HDL コレステロール	(善玉コレステロール) 末梢の血管などから余分なコレステロールを肝臓に戻す役割をします。
	LDL コレステロール	(悪玉コレステロール) 血管壁にコレステロールを溜め、 動脈硬化の原因となることがあります。
	中性脂肪 (TG)	高くなると動脈硬化の原因となります。 食事の影響を受けるので、空腹時に測定します。
	non-HDL コレステロール	中性脂肪が400mg/dlより高い場合に、LDLコレステロールの代わりに用いられる項目です。
腎臓	尿素窒素	体内で使われた蛋白質は肝臓で尿素に変えられ排出されます。腎臓の機能を反映します。
	クレアチニン (CRE)	腎臓から代謝される老廃物の一つで、腎機能の指標となります。筋肉量と関係します。
	eGFR	年齢・性別・クレアチニン値を用いて計算されます。 CKD (慢性腎臓病) の診断に用いられます。
	尿酸 (UA)	お酒の飲み過ぎ食べ過ぎで増加し、 痛風や尿酸結石の原因となる成分です。
電解質	クロール (Cl)	身体の水分量やpHを一定に保つよう調節する働きをしています。
	ナトリウム (Na)	
	カリウム (K)	心臓や筋肉、神経に関係した働きをしています。腎臓から排出されます。
	カルシウム (Ca)	骨のカルシウムの量ではなく、血液中のカルシウムの量を測定したものです。
	無機りん (P)	骨に多く含まれ、 副甲状腺の機能障害や腎臓からの排出・再吸収障害があると変動します。
	血清鉄 (Fe)	貧血の病態把握を行うための重要な成分です。
糖	HbA1c (NGSP)	ヘモグロビンに糖が結合したもので、過去1~2ヶ月の平均血糖値を反映するとされます。
	血糖 (空腹時)	空腹時の血液中のブドウ糖の濃度で、糖尿病の診断に重要です。
	血糖 (随時)	食後は血糖値が上昇するため、診断時には食事の影響を考慮することが重要です。

【血清・免疫学的検査】

CRP 定量	体内のどこかで炎症が起っているときに増加します。
リウマチ因子 (RF)	リウマチ患者に高頻度に認められるリウマチ因子 (自己抗体の一種) を調べます。
HBs 抗原	B型肝炎ウイルス感染の有無を調べます。
HBs 抗体	現在もしくは過去にB型肝炎ウイルスの感染があるかや、ワクチンの効果を調べます。
HCV 抗体	現在もしくは過去にC型肝炎ウイルスの感染があるかを調べます。
梅毒 (RPR)	梅毒感染の有無を調べる検査です。膠原病や結核などでも陽性になることがあります。
梅毒 (抗TP抗体定量)	梅毒の病原体に感染したことがあるかを調べる検査です。

【腫瘍マーカー・リスク検査他】

腫瘍マーカー	肝がん	AFP	肝細胞がんの診断に有用です。妊娠時にも上昇します。
	消化器がん	CEA	大腸、胆管、膵、肺などの腫瘍マーカーです。喫煙者で増加することもあります。
	前立腺がん	PSA	前立腺の腫瘍マーカーです。前立腺肥大でも増加することがあります。
	膵臓がん	CA19-9	膵臓や胆道の腫瘍マーカーです。慢性膵炎でも増加することがあります。
	卵巣がん	CA125	卵巣の腫瘍マーカーです。良性卵巣腫瘍、子宮内膜症でも増加することがあります。
リウマ	胃がん	H.ピロリ菌抗体	胃がんや慢性胃炎の原因となるピロリ菌感染の有無を調べる検査です。
	スガ	ペプシノゲン検査	胃粘膜の炎症や萎縮 (老化) の程度を調べます。
	クン	ABC検診	ピロリ菌抗体・ペプシノゲン検査の結果から、胃がんになるリスク (危険性) を判定します。
心機能	NT-proBNP		心臓から分泌されるホルモンで、心臓に負担がかかると増加します。

自覚症状のない身体の病変を見つけたり、自分の健康状態を知って生活習慣病の予防など、健康を守るために役立てましょう！

